

市指定

所在地：小多田

おうじやまやきふたもの

王地山焼蓋物

王地山焼は篠山藩青山家のお庭焼として、王地山稻荷神社石段の北側、金比羅神社との間の谷に窯を築いて製作していたもので、天保年間(1830~44)に最も隆盛を極めた。主として、九州天草の土を挽いて、京都の奥田おくだえいせん頼川の門人きんこどうかめすけ欽古堂りゅうきどう亀祐や小枕の柳かめしち亀堂かめしち七らが中国青磁、染付、赤絵等を伝承し、藩主の保護を受け数々の作品を作り出していたが、廃藩により明治初年(1868)をもって廃窯となった。

この蓋物は、染付鍋形で、裏に「丹波篠山欽古堂亀祐作之」の銘の残る名作である。

約25cm角。

